

「地域おこし協力隊」(以下、協力隊)は、都市部から過疎地域などに住所を移し、地域協力活動を行いながらその地域への定住を図る国の制度です。外部人材ならではの視点から地域の魅力を再発見してもらうことで、地域活性化の取り組みに新たな風を吹き込んでもらうことが期待されています。

内子町では平成23年から協力隊を募集。これまで総勢34人が着任しています。活動内容は、地場産品の開発・販売、農林業への従事など、隊員によってさまざまです。今回の特集では同制度の概要とともに、内子町で活躍する隊員たちの素顔を紹介します。

◆特集◆

地域おこし協力隊の現在地

はじめまして、内子町の新任隊員です

この4月に着任した、内子町の新しい地域おこし協力隊を紹介いたします——



三好 巧馬さん

- ▷出身：松山市
- ▷担当業務：地域ビジネス推進
- ▷趣味・特技：写真撮影、コーヒー屋巡り
- ▷メッセージ：写真家兼鍼灸師の三好です。MORITEIで若い力を生かしていきます。



高石 利久さん

- ▷出身：東温市
- ▷担当業務：内子高校学習センター指導員
- ▷趣味・特技：旅行、読書
- ▷メッセージ：地域の魅力を大切に、皆さんと共に歩んでいきたいです。



島本 理代さん

- ▷出身：松山市
- ▷担当業務：内子高校魅力化コーディネーター
- ▷趣味・特技：防災クッキング
- ▷メッセージ：地域と内子高生をつなぎ、魅力あるまちづくりをお手伝いしたいです。



柴田 賢太さん

- ▷出身：埼玉県
- ▷担当業務：大瀬地区活性化
- ▷趣味・特技：神社仏閣巡り
- ▷メッセージ：歩き遍路でご縁をいただいた内子に貢献できるよう活動していきます。



安田 友紀さん

- ▷出身：東京都
- ▷担当業務：御祓地区活性化
- ▷趣味・特技：読む・観る・聴くこと
- ▷メッセージ：人が優しく、景色が美しい御祓地区。ぜひ足を運んでください。



横山 理人さん

- ▷出身：東京都
- ▷担当業務：内子高校学習センター指導員
- ▷趣味・特技：絵を描くこと、タイ語
- ▷メッセージ：毎日、町並みや自然の美しさを感じています。よろしくお願ひします。



緑川 拓海さん

- ▷出身：東京都
- ▷担当業務：内子高校学習センター指導員
- ▷趣味・特技：運動、映画鑑賞
- ▷メッセージ：地域の皆さんと関わり、生徒の学びを支えるため精一杯取り組みます。

「地域おこし協力隊」について

平成21年度に総務省が創設。令和6年度の隊員は全国で7,910人。任期終了後も約69%が同じ地域に定住しており、同一市町村内に定住した隊員の約5割が起業するなど、新しい感性や刺激を地域に持ち込み、新しい仕事を作り出している。

地域も協力隊も輝けるように

令和5年に着任した協力隊3人が、3年の任期を終えて卒業を迎えました。3月末には各隊員が活動報告会を実施。住民と関わりながらそれぞれのミッションに向き合う中、自身や地域に生まれた影響や変化、そしてこれから実現したいことなどを語っています。

内子町初の協力隊であり、現在は町内で事業を続ける先輩・山内大輔さんに、これから内子町で活動する隊員やまちの皆さんへメッセージを贈ってもらいました。

魔法のような対策はない、でも課題解決へ歩みを進めたい

有害鳥獣対策担当 浪江和希さん

ミッションは有害鳥獣対策です。当初は農家さん自身が捕獲を担い、私はそれを支援するのが効率的だと考えましたが、被害が増えるのは収穫期であり繁忙期。継続には省力化も考える必要があると分かりました。捕獲した害獣の処分も大きな課題。負担の大きい埋設や焼却に代わる方法として、牛糞と木質チップを利用し個体を分解する「発酵減容処理」という方法に出会いました。現在、実験を重ねているところです。内子町で実現できれば、課題解決の一助になると期待しています。



Namie Kazuki

人がつながれる「場所」に感じる大きな可能性

道の駅からり担当 加藤正人さん

内子フレッシュパークからりで商品開発やイベント企画をするのが主な役割でした。出荷者の皆さんの協力でワークショップをしたり、写真や絵画のコンテストをしたり。じゃばらを使ったクラフトビール製造にも挑戦しました。活動を通じて農家の大変さも、営業の難しさも、多くの人とつながる楽しさも感じる事ができました。今後は、まちの将来を担う若者が気軽に交流できる場所をつくるのが目標。人とのつながりから、地域への愛着とワクワクが生まれる場を目指したいです。



Katoh Masahito

魅力あふれる小田深山をより多くの人に感じてほしい

小田深山地区担当 松下博幸さん

スキー場と小田深山渓谷を生かした町おこしをミッションに活動しました。もともとアウトドア好きで、スキー場ではスノーボードのインストラクターやネイチャーキャンプの支援、小田深山渓谷では学校遠足やツアーの対応、アマゴの稚魚放流イベントなどに関わりました。小田深山は訪れるたびに発見と感動がある場所。その魅力を伝えるために、卒業後は新会社でガイドやツアー販売などに引き続き取り組みます。より多くの人に、この豊かな自然を感じてもらいたいですね。



Matsushita Hiroyuki

Interview

た。着任した平成26年以降、多くの協力隊が内子で活動し、事例が蓄積しています。これから志す人たちは先輩隊員や、協力隊に関わってきた皆さんの話をぜひ聞いてほしいです。えひめ暮らしネットワークなど、協力隊へのサポート体制が整ってきているのも大きいです。自分は割と大丈夫だったけれど、知らない土地で暮らすって不安ですからね。いきなり「地域のために」と考え過ぎず、自分たちが暮らして楽しい、内子っていいところだな、となるが理想。そのためにも内子のいろいろなところへ出かけたり、さまざま人と情報交換したりしてみてください。

協力隊が力を発揮できるかどうかは、本人の思いはもちろん、関わってくれる地域の皆さんの影響も大きいです。「何かしてくれだろう」と任せきりにするのはなく、「彼らと何か生み出せないかな」と、一緒に考えてくれる——「お互い様」の関係がありがたいんじゃないでしょうか。私もやりたいことはたくさんあります。皆さんとこれからも内子町で楽しいことをしていきたいです。

「お互い様」の関係で一緒にまちを盛り上げたい

山内 大輔さん

町並み保存地区の入り口で宿を経営しています。知らないまちで店を開くのは大変なことだと思います。自分は協力隊として地域の人と触れ合い、たくさんつながりができました。その中で内子町を好きになれたことが、事業をする上で大きなアドバンテージになったと感じます。私はお遍路がきっかけで移住を決め、協力隊になりました。

